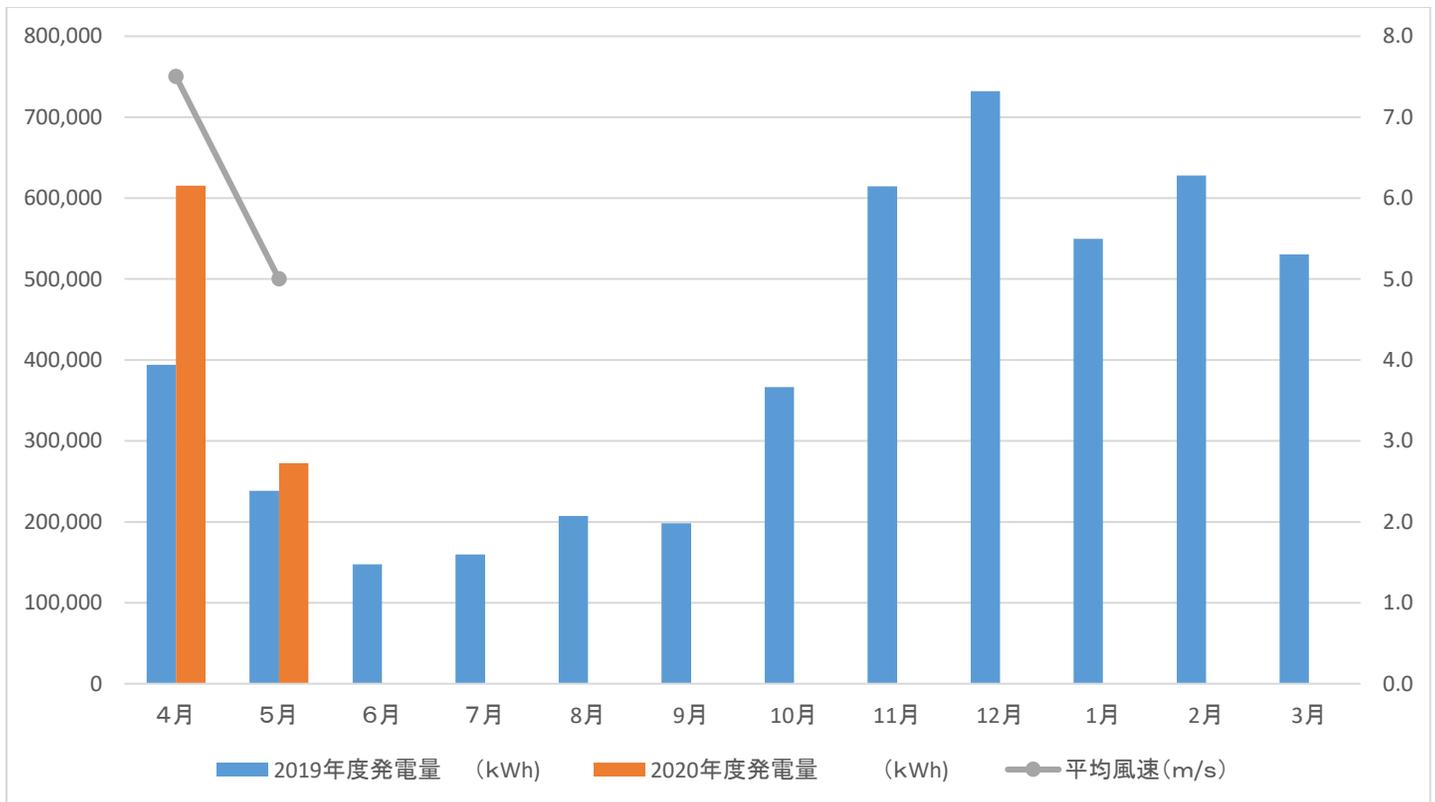


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

## ○ 2020年度発電実績



## 5月度運転状況について

- 風況は前年に比べ0.3m/s高くなりました。
- 5月は、風車の8.0年次点検と変電設備の年次点検を行いました。

\*\*\*\*\*



鳥海山の「パンダ」見えますか？  
今年も夏を告げる雪形が浮かびあがったとのことです。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	615,129	7.5	99.1
5月	272,629	5.0	94.0
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

## 第12期定時社員総会を開催しました

5月28日に予定していましたグリーンファンド秋田の社員総会を書面議決で行いました。代表理事の半澤彰浩より社員に対して総会議案を提案し、議決権のある社員、生活クラブ生協・東京、生活クラブ生協・神奈川、生活クラブ生協・埼玉、生活クラブ生協・千葉、NPO法人北海道グリーンファンド、(株)市民風力発電の全員から同意の意思表示を書面でうけたので、社員総会があったものとみなされました。

1号議案は、2019年度事業活動報告と決算書類及び剰余金処分案が承認されました。2019年度は順調に稼働したことから、剰余金処分として修繕積立を行いました。

2号議案は、2020年度事業方針と予算案が承認されました。基本方針では、生活クラブ風車建設運動が始まり10年の成果を踏まえて、今年度は次の10年に向けた新たな取り組みのスタートとしますとしました。2020年度年間発電量473万kWhを計画します。

3号議案では、新たな監事として、生活クラブ神奈川の希代監（きたい かん）常勤理事が選任されました。

### <社員紹介>



### NPO 法人北海道グリーンファンド

NPO 北海道グリーンファンドは、生活クラブ生協・北海道の脱原発運動の流れから、1999年7月に設立されました。その設立趣意書には「現代社会の異常なほどのエネルギー消費は、すでに限界に達しつつあることは誰もが気づき始めています。このまま大量に生産し、消費し、廃棄する社会のあり方を続けていけば、まちがいなく21世紀には限界を越え、地球環境とあらゆる生命の破滅的な危機に向かわざるをえません。では、そうした危機から回避するための社会とは、どういう社会なのでしょう。それは、社会全体でエネルギーの消費を抑制、削減し、自然エネルギーの利用を大胆にすすめる社会です。そして、そうした社会をつくるためにいま必要なことは、市民の手によるエネルギーづくりの実践です。つまり市民自らエネルギー消費を抑制し、自ら資金を拠出して環境負荷の少ないグリーンな電力を生産することで市場を動かし、そうした電力を市場の主役に育てようという実践です。また、そのような実践をもってする電力事業を中心とした社会制度変革のための政策提案です。地球温暖化もない、原子力にも頼らない持続可能な社会を、市民自らの手で創り出していくために北海道グリーンファンドを設立します。」とあります。

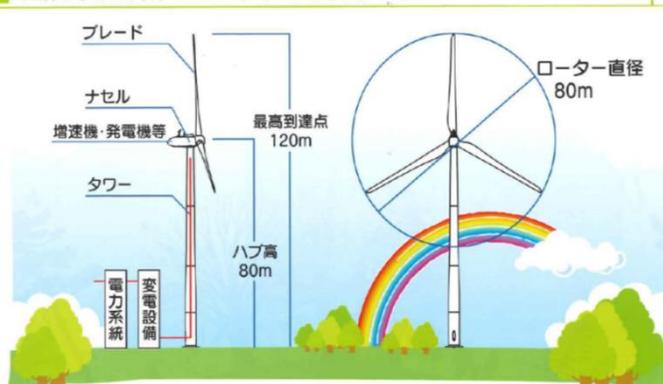
株式会社市民風力発電は、2001年2月に風車建設事業のために設立されました。この年の9月に、初めての市民風車「はまかぜ」ちゃんが誕生し、2018年末で30基の市民風車が稼働しています。

## 8.0年次点検を実施しました

生活クラブ風車では、年次点検、半年点検、月次点検を実施しています。

5月11日～15日に、風車の8.0年次点検を(株)市民風力発電3名と協力会社2名で実施しました。点検は風車のブレード、増速機、発電機、PCS、主軸、ブレーキ、油圧ユニット、ナセル、タワーなどすべてについて200項目ほどを確認します。

### 風力発電機のしくみと各部の名称

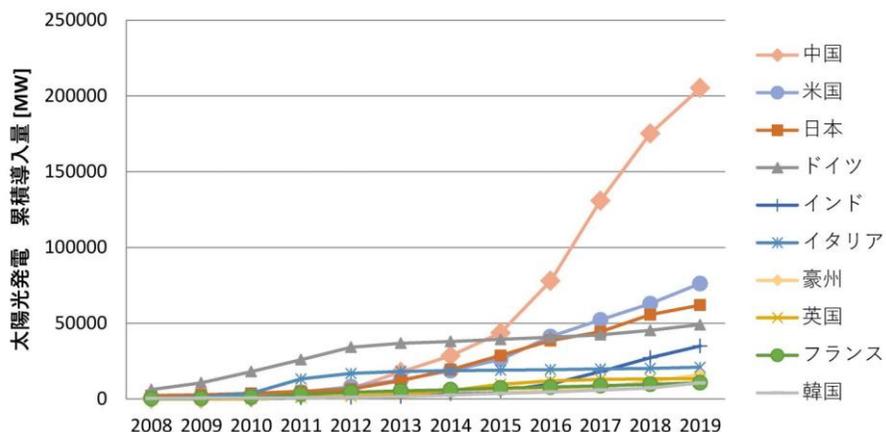




# コラム 世界の自然エネルギーとグリーン・リカバリー ～世界各国の最新トレンド（2019年）～

認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所 主任研究員 松原弘直

「新エネルギー新聞」2020年(令和2年)05月25日付より転載（一部抜粋）



## 急成長が続く世界の太陽光発電

新型コロナウイルスの影響で世界全体の経済活動が停滞し、一時的に化石燃料の消費量が減少することで温室効果ガス（GHG）の排出量も減っています。しかし、このコロナ後の回復（リカバリー）の過程において積極的に自然エネルギーを取り入れた「グリーン・リカバリー」が国際自然エネルギー機関（IRENA）の行動連合（Coalition for Action）

などから提案されています。さらに IRENA 行動連合では、自然エネルギー100%やコミュニティエネルギーに関する提言のレポートもリリースしています。

世界中で自然エネルギーが急成長するなか、すでに主力電源となっている水力発電や風力発電に続き、太陽光発電の導入が世界各国でさらに進んでいます。IRENA では世界各国の自然エネルギー発電設備の過去10年間のトレンドをまとめたレポートを毎年発行しています。

それによると世界全体の自然エネルギーによる発電設備は累積で25億kW（2.5TW）に達し、2019年には1年間で1億7,500万kW導入されて約7%増加しました。この累積導入量は全世界の発電設備の約3分の1にすでに達しています。2019年には世界全体で1年間に導入されている発電設備の約75%が自然エネルギーとなっており、さらにその9割近くを太陽光（約55%）および風力発電（約34%）が占めています。

世界全体の水力発電の設備容量は約13億kW（1.3TW）に達し、すでに原子力発電（約4億kW）の3倍以上になっています。風力発電も年間導入量が約6,000万kWで、累積では原発の約1.5倍以上の約6億kWに達しています。太陽光発電は、10年前の2010年には世界全体でわずか4,000万kWだった累積導入量が2019年末には前年から約1億kW増加して6億kW近くに達し、10年間で15倍以上になっています。すでに風力発電に続いて太陽光発電の設備容量も2017年末には原子力発電の設備容量を超え、風力と太陽光を合わせた設備容量が2019年末には原発の3倍以上の12億kW

（1.2TW）を超えてさらに増加しています。太陽光発電の累積導入量では2015年以降、中国が世界第1位となっており、2018年に国レベルの買取制度が中断したにも関わらず、さらに導入が進んでいます。すでに中国が、世界の太陽光発電の年間導入量の3分の1近くを占め、約3,000万kW（30GW）を1年間で導入して累積導入量でも世界第1位です。[上：図1＝国別の太陽光発電の累積導入量のトレンド（出所：IRENA データ等より ISEP 作成）]

その結果、2019年末までに中国は累積導入量で2億kW（205GW）を超え、圧倒的な世界第1位となっています（図1）。米国の累積導入量については、米国太陽光産業協会（SEIA）からの発表では、2019年末には7,700万kW（77GW）になり、世界第2位となっています（IRENA のデータでは約6,000万kWで第3位）。これに日本が約6,200万kWで続き第3位（IRENA のデータでは第2位）となっています。